

■内田秀五郎 井荻村長になるや、卓越した先見性・指導力で、長期にわたって区画整理や水道事業等に取り組んだ。

うちだひでごろう

三つの内乱・1876＝ 東京府上井草で、代々地域の農産を指導してきた篤農家内田藤吉の長男に生まれる。

蒲柳の体質だったが、母が苦勞して育てるうち、健康になり、

明治14年政変1881＝ 5歳：

新体詩抄・・・1882＝ 6歳：負けず嫌いの勝気な性格が際立つようになって、桃井小学校に入学、

内閣発足・・・1885＝ 9歳：

帝国大学始・・・1886＝10歳：首席で修了。温修科に進み、

さらに勉学に励んで、数年後に終える。

帝国憲法発布1889＝13歳：この年の町村制施行で、上井草・下井草・上荻窪・下荻窪を合併した井荻村が誕生。

剣道や相撲で向かうところ敵無しが強さになる一方、温和で親切心にも溢れ、周囲から尊敬される。

日清戦争始・1894＝18歳：

白馬会・・・1896＝20歳：父が死去し、一家を背負うことになる。

日比谷公園・1903＝27歳：

日露戦争終・1905＝29歳：推薦されて、井荻村の収入役となるや、村民を驚嘆させるほど精励して、

韓国反日暴動1907＝31歳：早くも、村長になる。同時に井荻村農会長にも就任。全国最年少村長でもあった。

古くからの志願兵組織(井荻正義会)が日露戦争後事情によって解散されていたのを再興して(井荻村奨兵義会)としたり、関係地主を説得しての道路拡張事業を皮切りに、

アヲキ創刊・1908＝32歳：成申詔書渙発に対応し、井荻村勤儉貯金組合を組織、

伊藤博文暗殺1909＝33歳：井荻信用購買組合を設立、

大逆事件判決1911＝35歳：井荻教育会を設立し、自ら会長になって村民育成を主導、

明治天皇没・1912＝36歳：窮民救済のため、井荻村慈善会を創設し、

大正政変・・・1913＝37歳：第一次大戦のセルビア救済義捐金に協力して豊多摩郡長から謝辞、

官有地侵害調査とその処理、課税の公平化と徴税の完遂、

民本主義・・・1916＝40歳：府知事による産業組合設立方針に呼応し、井荻信用購買組合を発展させた有限責任の組合を設立、

本格政党内閣1918＝42歳：井荻信用組合創立に伴い、勤儉貯金組合の分全てを移管、

ベルリン条約・1919＝43歳：この年、道路法が公布されると、それまで整備してきた道路を認定して村道とする。

大暴落・・・1920＝44歳：慈善会に対し、東京府知事から表彰状。この年発表された東京の大都市計画に刺激され、

原敬首相暗殺1921＝45歳：全村に電灯がつくようにし、

水平社結成・1922＝46歳：この年、*中央線に既設の荻窪駅に加え、尽力してきた西荻窪駅が新設されて電車が開通。井荻村耕地整理組合を創立し、組合長となって主導、

関東大震災・1923＝47歳：大震災の被災者で、人口が急増、距離による通学区を設定した上で小学校を新設して行くことを計画、

護憲三派圧勝1924＝48歳：第1回東京府会議員選挙に立候補、東京府の市郡間の経済障壁撤廃を訴え、最高点で当選。以後4回当選。

日本時代始・1926＝50歳：この年、町制が敷かれる。豊多摩郡農会長になる。いよいよ耕地整理に着手、

共産党事件・1928＝52歳：桃井第二・三小学校が竣工。村長以来21年勤めてきた井荻町長を辞任。教育会長も辞め、慈善会も解散。

海軍軍縮条約1930＝54歳：

満州事変・・・1931＝55歳：

五一五事件・1932＝56歳：第四小学校、市郡併合が実現、杉並区に編入されて市域となったことから、(井荻村奨兵義会)は自然消滅。

東京市会議員に当選し、東京府農会副会長にもなる。

帝人疑獄事件1934＝58歳：第五小学校の新設が実現。翌年にかけて、市会の土木委員長になると、土木事業五十箇年計画を樹立する

など、短期間に多大の成果。井荻信用購買販売利用組合の事務所を建設し、本格的な取り組みを開始、

芥川直木賞始1935＝59歳：*苦節十年を経て、水道布設、郵便局・電話局設置、中島飛行機東京工場設立、西武村山線の開通と三駅設置、府立農芸学校の移転昇格、善福寺風致協会の設立などを含む、広大で密度の高い耕地整理が竣工。

二二六事件・1936＝60歳：東京府会の副議長になる。

日中戦争始・1937＝61歳：

この間、農業関係諸団体の要職を務めて活躍、

第二次大戦始1939＝63歳：4年の奮闘を経て発足した東京新宿青果株式会社(淀橋市場)の社長となり、

大政翼賛会・1940＝64歳：耕地整理への村民の感謝が上井草八幡神社境内に記念碑建立となる。

日米開戦・・・1941＝65歳：

・・・1942＝66歳：東京都農会長となり、戦局が進むなか尽力、

創価学会検挙1943＝67歳：都議会議員にも当選。戦時統制で東京新宿青果は一支店となる。東京都風致協会連合会会長になる一方、

年金+総武装1944＝68歳：善福寺風致協会のほとんどの事業が終わったことから会長を辞任、

敗戦・・・1945＝69歳：敗戦後、都議会議長、

新憲法公布・1946＝70歳：農会長もなお務め、交替した新議長が死去したため、再び都議会議長になるが、

新憲法施行・1947＝71歳：公職追放になる。再発足した東京新宿青果株式会社においても社長となって奮闘するとともに、

極東裁判判決・1948＝72歳：青果物統制が撤廃になると、同志と海外物産貿易株式会社を創立、

独立回復・・・1951＝75歳：解除となり、東京都農業委員会連合協議会長、全国農業委員会会長に就任。善福寺風致協会会長にも復帰

し、以後2年、その復興に努め、

メーデー事件・1952＝76歳：全国農地交換分合推進協議会長。この年、井荻信用組合をルーツとする東邦信用金庫が発足、以後、大発展

して行く。台湾バナナ輸入協会が結成されると海外物産貿易はその最高幹部会社となる。*喜寿を祝って「内

田秀五郎伝」が刊行され、善福寺公園内に銅像が建立される。

以後も一帯の公園化を推進すべく陳情などを続け、

なべ底不況・1957＝81歳：

タイタイ病始・1961＝85歳：都立善福寺公園開園に漕ぎつけ、都知事から表彰もされる。

TV宇宙中継始1963＝87歳：米寿記念刊行物では、東京都風致保存の守護神とまで称えられ、なお長寿を保って、

クランブル事件1975＝99歳：没した。

「内田秀五郎伝」、2000年都市計画学会研究論文ほか、